



# 地域密着型金融の推進について

平成22年4月  
(平成23年12月改定)

株式会社 滋賀銀行

# 目 次

行是、CSR憲章（経営理念）	P.1
しがぎんの概要	P.2 ~ P.3
地域密着型金融の推進に関する基本方針	P.4 ~ P.6
バーゼル（基礎的内部格付手法）の活用について	P.7
第4次長期経営計画について	P.8 ~ P.9
地域密着型金融の推進に関する数値目標	P.10 ~ P.11



## 行 是

自分にきびしく 人には親切 社会につくす

### CSR憲章（経営理念）

私たちは、伝統ある近江商人の「三方よし（売り手よし、買い手よし、世間よし）」の精神を継承した行是「自分にきびしく 人には親切 社会につくす」をCSR（企業の社会的責任）の原点とし、社会の一員として「共存共栄」を実現してまいります。

#### （地域社会との共存共栄）

地域とともに歩む銀行として、お客さまの信頼と期待にお応えするため、「健全」と「進取」の精神を貫き、地域社会の発展に努めます。

#### （役職員との共存共栄）

役職員一人ひとりの人権や個性を尊重し、働きがいのある職場づくりに努め、心身ともに「クリーンバンクしがぎん」の実現に努めます。

#### （地球環境との共存共栄）

琵琶湖畔に本拠を置く企業の社会的使命として「環境経営」を実践し、地球環境を守り、持続可能な社会づくりに努めます。

## しがぎんの概要（その1）

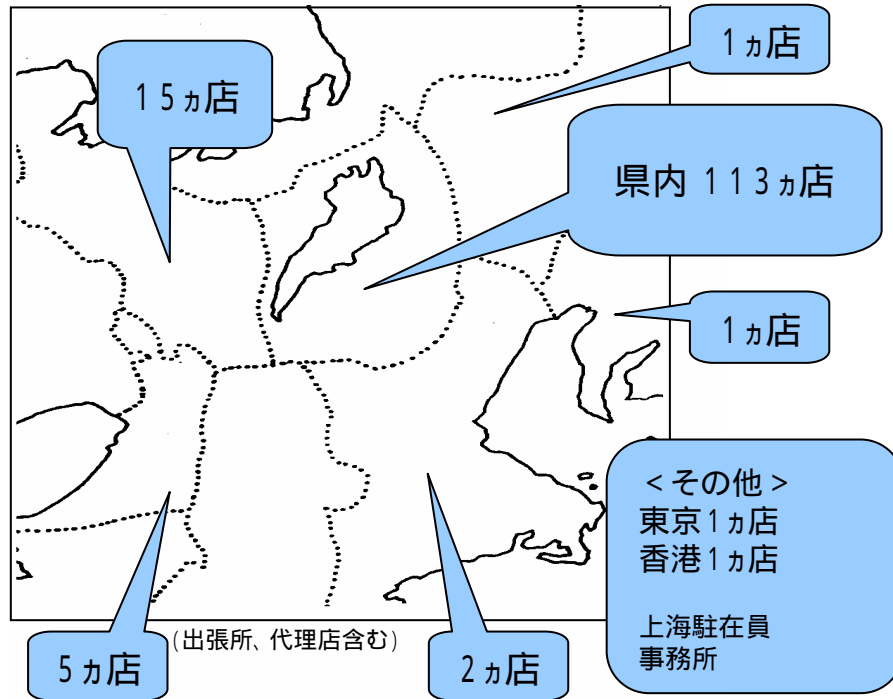
設 立	昭和8年10月1日
総資産	4兆4,403億円
預 金	4兆0,499億円（譲渡性預金含む）
貸出金	2兆7,164億円
資本金	330億円
純資産額	2,265億円
自己資本比率	13.83%
格 付	R & I A+ / J C R A+
従業員数	2,392人
店舗数	139カ店（うち代理店10カ店）

平成23年9月30日現在（単体情報）

# しがぎんの概要 (その2)

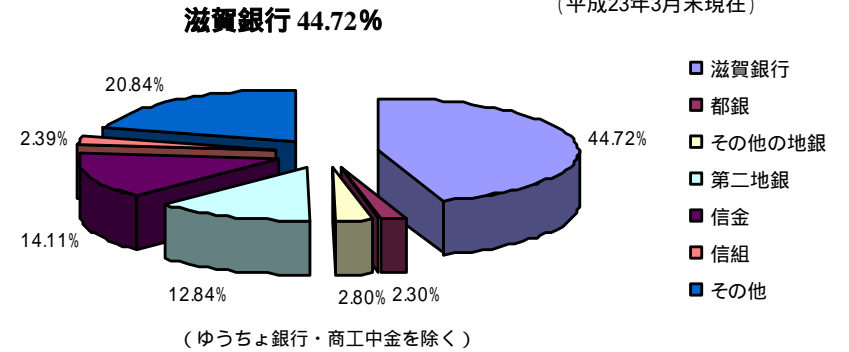
## 店舗網 (139カ店)

(平成23年9月末現在)



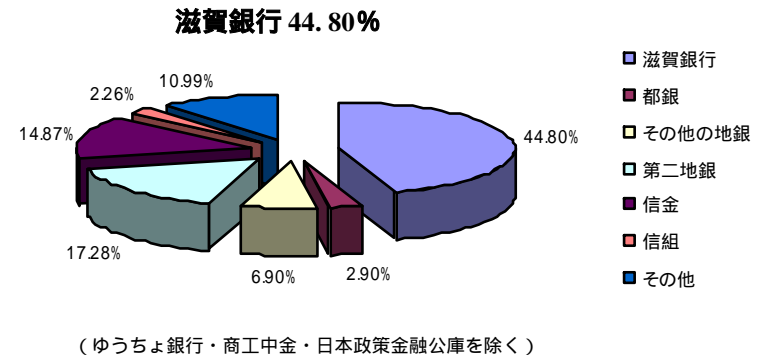
## 県内預金残高シェア

(平成23年3月末現在)



## 県内貸出金残高シェア

(平成23年3月末現在)



## 地域密着型金融の推進に関する基本方針（その1）

当行は、「地域社会との共存共栄」こそが地方銀行の目指すべき究極の姿であると考えております。そのための具体的な考え方は以下のとおりです。

### 自己責任経営

当行は、「銀行経営の近代化」の観点から、「合理的な考え方」により、当行独自の「企業格付制度」や「プライシング制度（リスクに見合った金利の適用）」を確立し、また、独自の「IT戦略」をもとに業務の高度化、迅速化へ対応するための様々なシステム・インフラを構築するなど、「自己責任経営」実現に向けた諸施策を実施してまいりました。

こうした取り組みの結果、当行は、平成19年3月期からスタートした新しい自己資本比率規制「バーゼル」において、より高度なリスク管理が求められる「基礎的内部格付手法」(FIRB)採用の承認を得ました。これは、当行が自己責任原則を踏まえた独自のリスク管理手法のもとで、銀行業の本質ともいえるべき「積極的なリスクテイク」ができる新しいステージに立ったことを意味します。今後も「格付コミュニケーションサービス」の実施などを通じ、これをお客さまとの相互理解のために活用することにより、「共存共栄」を追求してまいります。

## 地域密着型金融の推進に関する基本方針（その2）

### 独自経営

当行は、地域の皆さまから一層信頼を得るため、「独自経営」をさらに積極的に展開しなければならないと考えます。具体的には、お取引先との**相互理解を図るための「対話力」**の更なる強化に取り組み、「**高い付加価値を提供できる金融サービス業**」としての態勢を一層強固にして、下記の「**3つのブランド戦略～知恵と親切の提供～**」の充実と実践に魂を打ち込んでまいります。

### ネットワークのしがぎん

お取引先の企業価値向上を目指して、お取引先同士のビジネスマッチングなど“**商流**”を**起こす・つなぐ活動**を積極的に展開いたします。また、**しがぎんネットワーク**（店舗網、グループ、商品）の活用で皆さまへのサービスと利便性の向上に努めます。

（商流：金銭取引、心のつながり、ご縁なども含む幅広い情報の流れと位置づけています。）

### アジアに強いしがぎん

近畿で唯一、海外支店を有する地方銀行として、香港支店、上海駐在員事務所や国際部「アジアデスク」と国内各支店を結ぶネットワークを通じて、お取引先の**アジア進出ニーズやアジアビジネス**を積極的にサポートいたします。



## 地域密着型金融の推進に関する基本方針（その3）

独自経営

CSRのしがぎん

当行は、「エコ・ファースト企業」として「**環境経営**」を実践し、「**環境金融**」を推進するとともに、**環境力（エコ・プロダクツ）**と**金融力（エコ・ファイナンス）**の融合を図り、環境ビジネスを積極的に支援いたします。また、第4次長期経営計画においては、CO<sub>2</sub>排出量25%削減（2013年3月末目標、2006年度比）を目指します。これらの取り組みを今後も積極的に展開し、琵琶湖畔に本拠を置く企業の社会的責任として、「**環境**」を主軸とした「**CSR**」を追求し、**持続可能な社会の実現**に貢献してまいります。

また当行は、1966年に策定された行是「**自分にきびしく 人には親切 社会につくす**」を原点として、経営理念である「**CSR憲章**」を制定しております。同憲章に込めた「**地域社会**」、「**役職員**」、「**地球環境**」との「**共存共栄**」を今後も多面的に追求し、CSR（企業の社会的責任）を果たしてまいります。

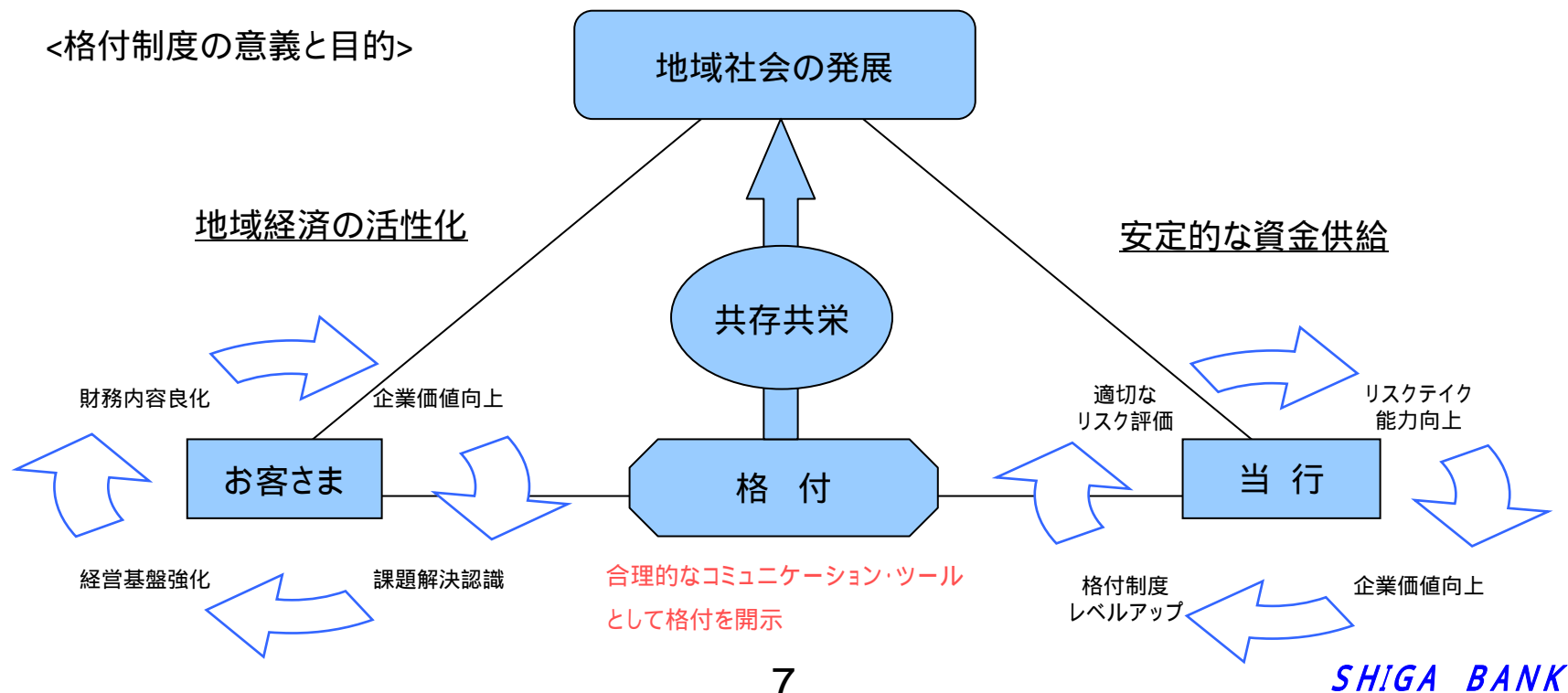
地域のお取引先の成長なくして、当行の成長はありません。また同時に、当行が営業の基盤とする地域社会が健全であるためには、当行自身が健全でなければならないと考えます。それらのためには、当行が求める新しい考え方や価値観を地域に発信し、具体的な「**考動**」を通じてお客さまの共感を得ることにより、「**地域社会との共存共栄**」を図ってまいりたいと考えます。



## バーゼル（基礎的内部格付手法）の活用について

当行では、「格付」を単に銀行がお取引先の信用リスクを評価するためのものではなく、当行とお取引先とをつなぐ合理的なコミュニケーション・ツールとして位置づけています。

こうした観点から、格付プロセスを通じて把握した定量面、定性面の分析などに基づき、お取引先に格付の内容をご説明し、お客さまが抱えておられる課題やリスクを互いに認識して、お客さまの経営基盤強化に向けたご提案に注力しています。



# 第4次長期経営計画の概要

金融環境が激変する中で、地域社会とともに進化を遂げ、より強靱な体質で持続的な成長を果たすために

第4次長期経営計画 平成22年4月～平成25年3月(3年間)

## 挑戦指標

- ・Tier比率(連結)→9.0%以上
- ・ROE(連結)→3.5%以上
- ・OHR(単体)→65%以下
- ・CO<sub>2</sub>排出量→25%削減(2000年比)

基本ビジョン

～NEXT STAGEへの挑戦～ “対話力”強化による更なる共存共栄を目指して

トップライン強化戦略

与信リスクのコントロール戦略

## 高い付加価値を提供できる金融サービス業の実現

お取引先の企業価値向上 ↔ 当行の存在価値向上

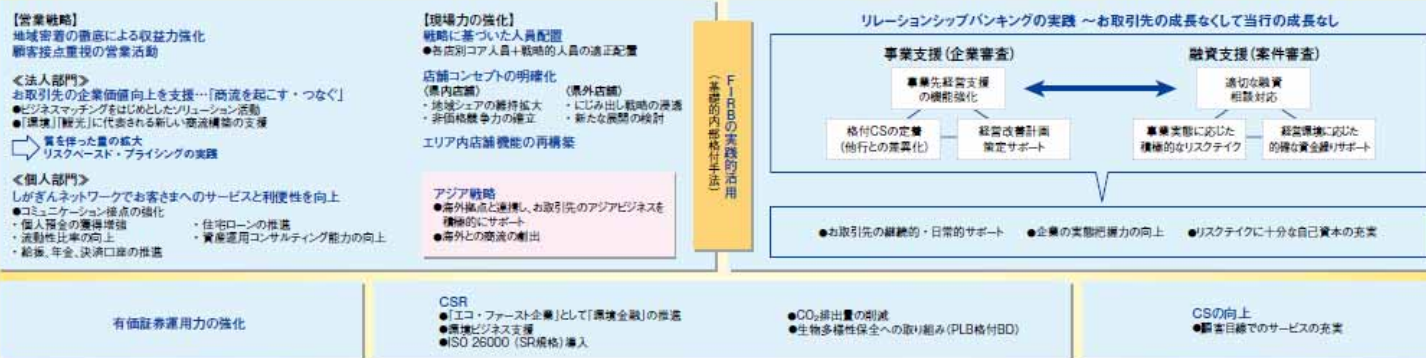
＜3つのブランド戦略＞  
～知恵と親切の提供～

ネットワークのしがぎん

アジアに強いしがぎん

CSRのしがぎん

「エリア営業体制」から地域の顧客ニーズに応える「エリアマネジメント」へ



コンプライアンスへの取り組み

内部監査の高度化

## 生産性の向上

- システム投資の可視化
- 投資効果を考えたコストの総管理
- 情報システム活用
- 電子記録簿への取り組み

- 店舗の効率化**
- フルタイムから機能特化型店舗へのシフト
  - 効率的な店舗網の構築
  - 本部機能の見直し
  - 各店別コア人員の検討と再配置(変化に対応した柔軟な人員体制)
  - 本部行員の能力開発

- 事務低コスト化の実現と事務品質の向上**
- BPRの定着
  - 営業店の業務フロー再構築
  - 融資専攻フローの見直し
  - グループ会社へのアウトソーシング

- グループ戦略**
- 総人員の効率的な配置
  - グループ連携の強化
  - グループ全体での新たなビジネスの展開
  - 新たな職務開発

## 人材育成

- 地域社会に貢献できる人材の育成
- 女性キャリアサポート体制の強化
- 部下育成・マネジメント能力の強化
- 若手行員の早期育成
- 中堅行員の能力開発の強化
- 潜在能力を引き出す人員配置
- ワークライフバランスの実現(職制見直し等)

国際会計基準(IFRS)対応

IRの充実

長計推進委員会

(長計推進チーム)

戦略的人員配置検討チーム

経費管理体制再構築チーム

システム活用検討チーム

融資BPR推進チーム

＜CSR憲章(経営理念)＞

地域社会との共存共栄

役職員との共存共栄

地球環境との共存共栄

## 第4次長期経営計画の基本ビジョン

基本ビジョン： ～ *NEXT STAGE*への挑戦～  
“対話力”強化による更なる共存共栄を目指して

今次長期経営計画においては、お取引先との相互理解を図るための「対話力」の更なる強化に取り組みます。

きめ細かい対話を通じてお取引先を一層“熟知”し、多様化するニーズを的確に把握するとともに、課題の解決や付加価値の高いサービスの提供に努めます。

具体的には、「3つのブランド戦略」（お取引先の企業価値向上などを旨とする「ネットワークのしがぎん」、お取引先のアジア展開をサポートする「アジアに強いしがぎん」、環境経営を実践する「CSRのしがぎん」）の各分野で多面的な“知恵と親切の提供”に努めます。加えて、行内的には従来の踏襲ではない生産性の高い組織づくりに注力し、より強靱な経営体質を構築いたします。

“熟知”を基礎とする「対話力」を強化して、時代が求める新しい価値観をお客さまと共有し、「共存共栄」の深化を図ることが当行の「NEXT STAGE」と位置づけ、全行あげて今次長期経営計画を展開、目標達成に取り組みます。

## 地域密着型金融の推進に関する数値目標（考え方）

当行は「地域密着型金融の推進に関する基本方針」に基づき、地域密着型金融の推進に関する3つの視点

- 「お取引先企業に対するコンサルティング機能の発揮」
- 「地域の面的再生への積極的な参画」
- 「地域やお客さまに対する積極的な情報発信」

をも踏まえて、当行独自の「3つのブランド戦略～知恵と親切の提供～」の具体的な実践に取り組んでまいります。

その取り組みの数値目標として、「第4次長期経営計画」の期間（平成22年4月～平成25年3月）中に、次頁に掲げる数値目標の達成を目指してまいります。

## 地域密着型金融の推進に関する数値目標

取り組み項目	平成25年3月末目標	地域密着型金融の推進に関する3つの視点		
<b>第4次長期経営計画の挑戦指標</b>				
Tier1比率(連結)	9.0%以上	お取引先企業に対するコンサルティング機能の発揮	地域の面的再生への積極的な参画	地域やお客さまに対する積極的な情報発信
ROE(連結)	3.5%以上			
OHR(単体)	65%以下			
CO <sub>2</sub> 排出量	(2006年度比較)25%削減			
<b>「3つのブランド戦略～知恵と親切の提供～」に関する取り組み</b>				
<b>「ネットワークのしがぎん」に関する取り組み</b>				
ニュービジネスサポート：コーディネート活動件数	100件			
ビジネスマッチング件数(面談設定)	2,400件			
事業承継提案件数	360件			
格付コミュニケーション・サービスの実施回数(のべ回数)	3,400回			
債務者区分のランクアップ先数	1	60件		
中小企業再生支援協議会の活用件数		24件		
<b>「アジアに強いしがぎん」に関する取り組み</b>				
アジアデスク・海外拠点によるサポート件数	3,600件			
中国進出アドバイザー契約件数	10件			
海外ミッション、海外商談会	各3回			
海外企業とのビジネスマッチング取り組み件数	100件			
<b>「CSRのしがぎん」に関する取り組み</b>				
エコプラス定期	650,000件			
PLB資金、エコクリーン資金(件数) 2	1,400件			
PLB資金、エコクリーン資金(金額)	180億円			
PLB格付BD評価件数 3	3,800件			
災害リスクコンサルティング	100件			

- 1 債務者区分のランクアップ先数...審査部企業経営支援室が担当となり支援を申し上げるお取引先についてカウントします。
- 2 PLB資金 ...「しがぎん」琵琶湖原則(Principles for Lake Biwa)支援資金
- 3 PLB格付BD ...生物多様性(Biodiversity)の保全活動に取り組みられるお取引先に対する当行独自の評価体系